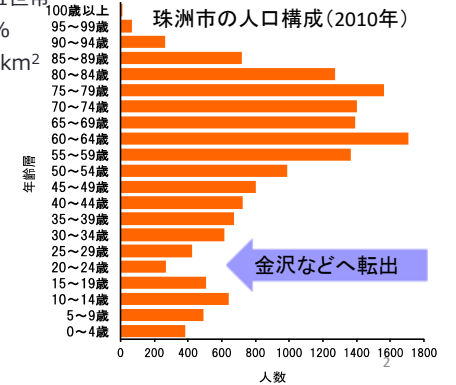




## 珠洲市の紹介

- 人口：14,248人 (2019.5.31現在)
- 世帯数：6,161世帯
- 高齢化率：約47%
- 面積：247.20km<sup>2</sup>

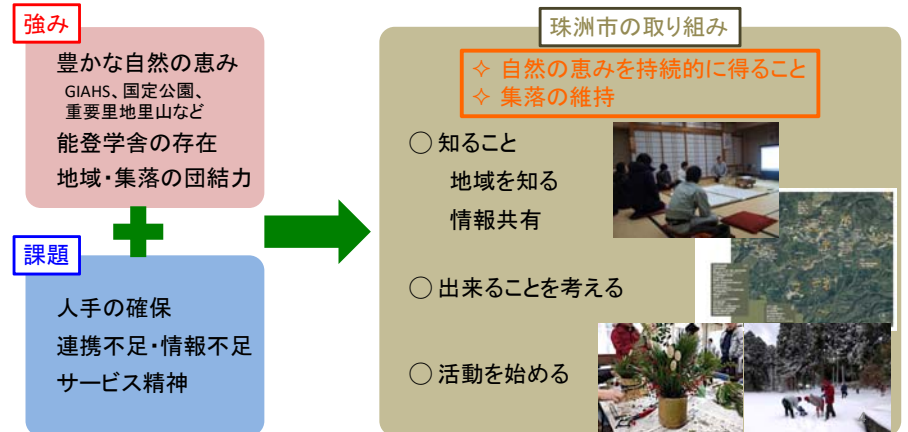
里山里海に代表される自然  
里山里海から得られる豊かな恵み  
各地に残る祭りや伝統行事



## 自然と共生するまちづくりの拠点



## 地域循環共生圏の構築を目指した取り組み



# 地域循環共生圏の構築を目指した動き



## 粟津村おこし推進協議会 粟津地区の里山里海の保全活動を行う地域団体



所在地: 石川県珠洲市三崎町粟津地区

メンバー 17名

主な活動内容

- ・荒廃した竹林の整備、竹の活用
- ・ドジョウ田での米作り、販売
- ・里海の保全活動(サーフィン大会、竹灯籠)



2011年、粟津の田んぼに朱鷺が飛来してから朱鷺が粟津地区のシンボルとなり、地元のNPO団体と協力し朱鷺の好物であるドジョウを増やすための魚道が3か所の田んぼに設置されている。

### ■目的

里山里海の恵みを活かして活動資金を生み出すために、地域内外のかたの経済活動のアイデアと地域活動を繋げる。

### ■取り組み

地域循環共生圏構築検討業務で行った粟津地区でのサポート

- ①米のブランド化
- ②体験イベント開催
- ③視察受け入れ

能登里山里海マスター育成プログラムで得た知識をもとに整理

アイデア① 米のブランド化	アイデア② 体験イベント開催	アイデア③ 視察受け入れ
朱鷺が飛来する田んぼで生きものを守る農業をしているのに、米を農協におろしている。価値を付けて都市住民に販売し、活動資金を生み出す。	米を買ってくれた方が実際に米作りを体験したり、粟津に遊びにこれるように、里山里海の保全活動を体験イベントとして開催し、活動資金を生み出す。	これまで珠洲市や金沢大学に問い合わせがあった、里山里海の保全活動の視察を協議会で受入れ活動資金を生み出す。

## ① 米のブランド化

2017年10月

米のブランド化について話し合いスタート  
モチベーションは高いがなぜか上手く進まなかった

2018年2月

ブランド化に必要な作業を  
「箇条書き」にすることで本当の課題が見えた

アプローチを変える

サポートする側は、地域団体から本当の課題を聞き出すことが出来ないため「モチベーションが低い」と誤った判断をするのではなく、別のアプローチを検討するべきである。

## 課題

- PCを使える人がいない  
(ネットが繋がっていない)
- ブランディングやネット販売のノウハウがない
- 情報共有の必要性について重要度が低い。
- 事務的な作業をする人がいない



## サポートした作業

- 情報収集と発信
- 専門家に相談  
ノウハウを学び伝える
- スケジュールの調整  
声掛けなど情報共有
- コーディネーターを雇用することを想定したサポート

## ②体験イベント開催

地域団体のメンバーは、保全活動を体験イベントとして企画する発想が持てなかった

イベント企画作業  
資料作成作業

竹林整備体験として  
BambooChallenge2018in粟津を開催



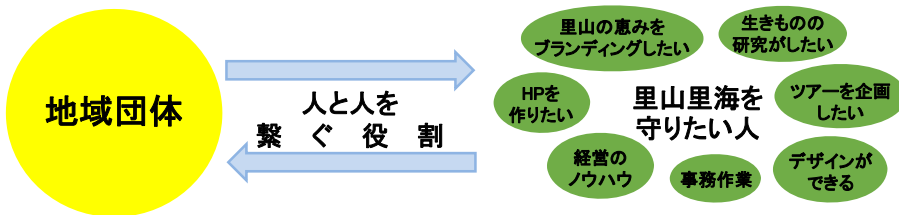
## ③視察受け入れ

地域の保全活動を行う団体のため公の窓口がなく、視察側と協議会の間に立つ窓口がなかった

窓口作業

伊フガオ里山マイスター養成プログラム  
受講生ほか訪日団の視察受け入れ

地域団体だけで活動資金を生み出せなかった団体もアイデアが実現できる



保全活動を行う団体が活動を継続

みんなが自分のできることと一緒に活動

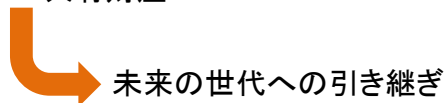
珠洲市の職員として地域団体をサポートしてきたが、これからは、地域の中で人と人を繋ぐ役割を担うコーディネーターが必要



# 生物文化多様性基本条例

目的: 生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する基本理念を定めること

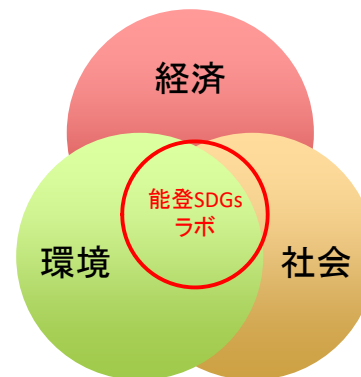
里山里海 = 共有財産



- 罰則規定は設けない  
(種の保存法に準ずる)
- 行政・市民・企業団体・来訪者などの責務は努力目標
- 希少生物の保全と外来種対策について明記

# 能登SDGsラボの役割

ヒト・コト・モノをつなぎ、  
環境・社会・経済の  
相乗効果を生み出す



人材育成プログラム修了者の活用  
 地元事業者のコンサルティング  
 自然資源を活かした事業支援  
 SDGsの理念・考え方の普及

# 今後に向けた課題

## 説明の難しさ

年配の方や子供にも理解できるのか

## 自然環境への認識の低さ

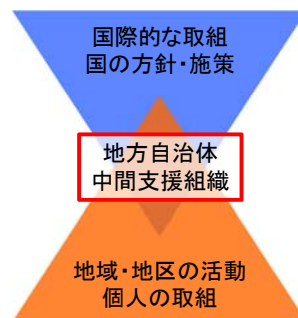
環境に配慮することで得られるメリットの体感  
 自然の恵みの上手な活用

## 情報の収集と共有の不足

集落内、自治体内、田舎と都会、研究者と住民

## SDGs実践に向けた支援の充実化

農山漁村地域の存在価値の評価と活動支援



ご静聴ありがとうございました。